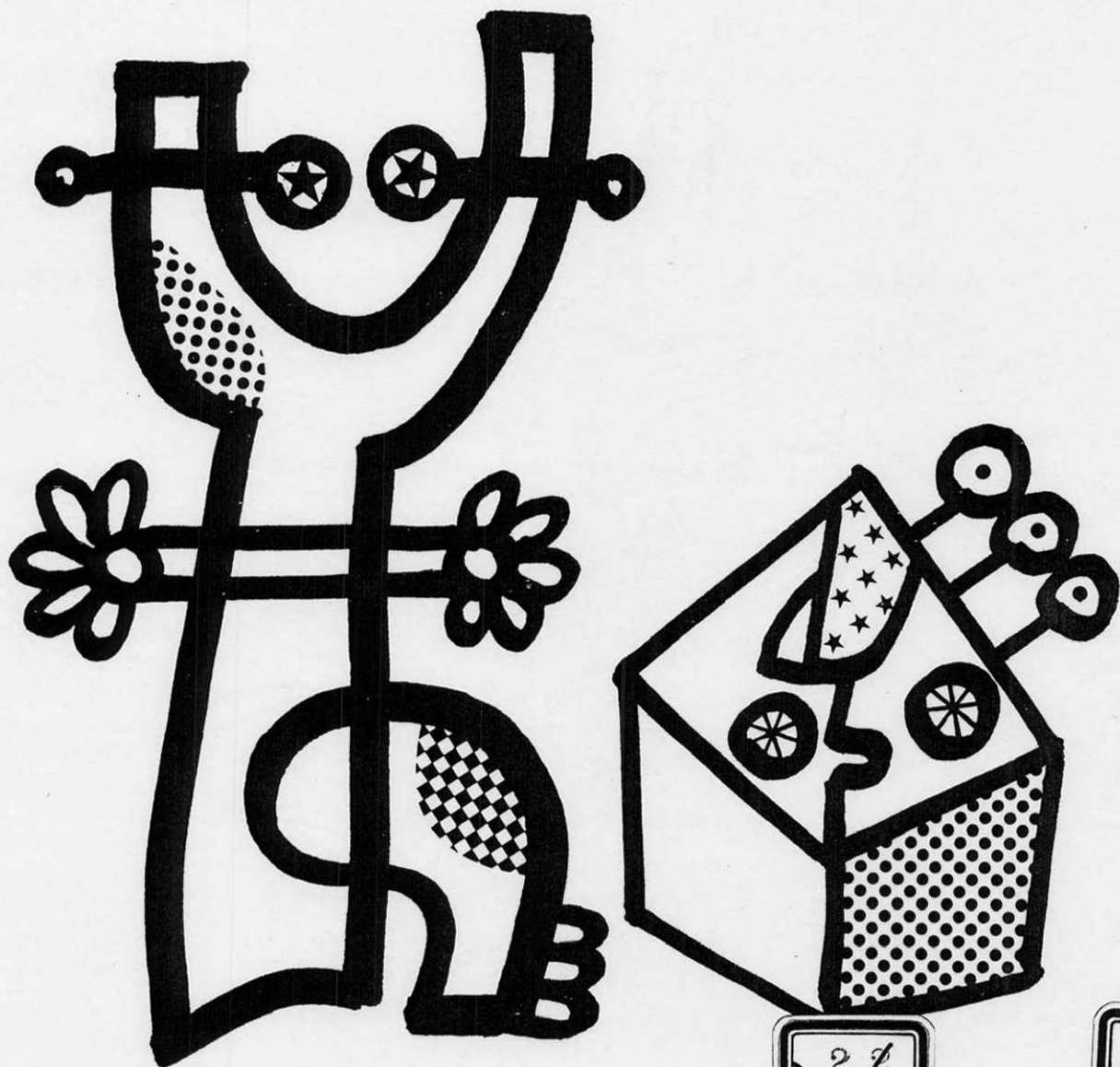
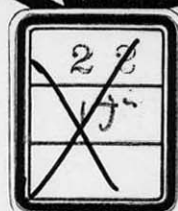


月報 岡崎の教育

53年度 No.59～70



岡崎市教育委員会





ゆたかな緑に つつまれて
愛宕の子らは 今日も駆けまわり
跳びはね ころがり
力の限り よじのぼる

つり輪、まるばしご、のぼりあみ
竜の輪、……

「負けるもんか。」
「ひろちゃんがんばれ。」

精気に満ちた眼、強じんな体
あくことを知らない 愛宕の子

昭和53年4月1日
編集・発行
岡崎市教育委員会



(体力づくりのフィールドアスレチック-愛宕小)

江戸時代の半ば、宝暦から寛政頃にかけて、岡崎伝馬町に旅籠屋を営む金沢藤左衛門という人物がいた。通称藤左衛門、字は休、子匹と号した。篤学の人で、漢学を尾張の岡田新川に学び、もつとも詩をよくしたという。休は、旅客を送り迎える一介の市井の人でありながら、「春秋左伝国次」を上梓し、当時話題の人であつたらしい。



岡崎藩本多家の儒者松下鳩台は、その随筆集「山家樵談」のなかで「金沢休ハ……晩年ニ左氏伝ヲ好テ日夜誦読意ラズ因テ列国ノ事伝中紛錯シテ見難キヲ思テ各国ノ部ヲ分チ八巻トシ左伝国次ト名ツク大村侯ノ臣本田庄蔵ナルモノ此家ニ投宿シ休カ深夜ニ左氏ヲ誦ムヲ聞キ又彼ノ国次ノ作ヲ観テ大ニ感歎シ携帰テ侯ヘ呈覽ス侯甚嘉賞セラレ上木ノ資五十金ヲ賜

ハリ且本田氏ニ命シ序文ヲ撰セシム……」と記している。

大村侯とは、肥前大村藩主大村純鎮のことで、本田庄蔵は、藩儒本田鶴である。この書成立のエピソードとしては、やや出来すぎの感がなくもないが、本田自身が序文のなかで同様のことを記しているから、あながち作り話でもないようである。本田は、休の学問の水準の高いこ

文人の旅逆

子行新

—— 教育随想 ——

とを激賞し、いずれかの藩から招かれてもいい程なのに、旅籠屋のあるじで終ることに満足しているようだといふけ加えていゝ。いづれにしても、漢籍のなかでも特に難解とされている「春秋左氏伝」の解説を書物にするというのは並大抵のことではなかつたらう。

こうして、寛政九年春「春秋左伝国次」は刊行された。全部で八巻から成り、第

一卷は、この本に寄せられた序文集である。松平定信の強力なプレインの一人であり、長崎奉行から寛政九年、幕府勘定奉行に就任した中川飛騨守忠英をはじめ、柴野栗山、岡田新川、本田鶴、海保青陵等著名の学者十五名が序を寄せている。当時は、上梓するにあたり何人かから序文を貰うというのは、普通のことであつたが、一巻全部が序文だけというのはちよつと珍らしい。

寛政二年琉球使節が岡崎通過の際に、金沢休は藩医荻須親卿とともに詩を唱酬し、それを「萍水奇賞」として翌年刊行している。版元は、連尺町扇屋伝左衛門、名古屋の永楽屋東四郎であつた。

これほどの人物であつたにもかかわらず、その生涯はよくわからない。数年前から気にかげながら、生歿年や菩提寺すら知ることが出来ないでいる。鳩台は、前出の文につづけて「休力作ル詩モ今ハ四十年ヲ隔レハ散亡シテ伝ラス」と云つていゝ。幕末に藩の御用達をつとめた家なので、明治まで続いたことは確かである。岡崎の近世文化を考える上で欠かすことの出来ぬ人物であるから、せめて墓の有処だけでも知りたいものである。存寄りの方がおられたら、是非お教えいただきたいと願つていゝ。



本多有三

二月も半ばを過ぎた金曜日、帰りの会で一人の女子の転校を告げた。「卒業まではいっしょに勉強できる予定だつたけれど……」

と、目前にひかえた卒業を待たずに別れなければならぬ淋しさを話し始めた。いつも雑然としている教室が、シーンと静まりかえつた。後ろの方で、女の子がひとり、まばたきをして目をこすり出す。当の本人は、少し前から目頭を赤くしていた。

「あ、泣いとる。」
「あ、泣いても泣いてる。」
と、静けさを破って男子の声。

全体の視線がくずれたかと思つたら、声こそ出なかつたが、十人程の女の子が泣き出してしまった。

放課後も廊下で泣き顔が集まっている。「いつまでも泣いてちゃだめだよ。」
「……………」

声に出して返事ができない。その日の通学団チーム会でも、

モンシロとスジグロ



モンシロチョウ夏型♀

ふるさとと自然

「スジグロシロチョウはどんなチョウ」と聞かれたら、知らないと言えぬ人が多
いだろう。
スジグロシロチョウはモンシロチョウ
と同じ属のチョウで、とてもよく似てい
る。しかも、両種とも市内の各所に生息
しているのである。
ひよっとして、子どもたちに聞かれた
はずみに、
「これはモンシロチョウだ。」と答えて
しまったが、本当はスジグロだつたとい
うこともないとは言えない。
モンシロとスジグロはどこが違ってい
るのかと言うと、スジグロシロチョウは

名の通り、翅に黒いすじがある。また、
捕らえると独特なおいを発するのでモ
ンシロチョウと区別ができる。ところが、
春に出現するスジグロシロチョウは、こ
の黒いすじがほとんどない。こういう場
合、自信がなかつたら、図鑑で調べるの
が一番である。

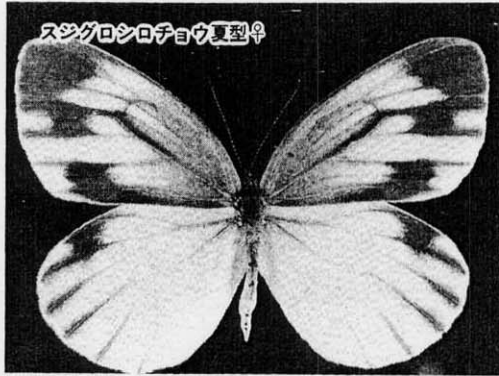
モンシロチョウは、(黒い)紋のある白
いチョウということで名付けられた名前
である。チョウに限らず、動物の名前(和
名)はその形態から名付けられたものが
多い。スジグロシロチョウも同様である。
ところで、モンシロチョウは日本的な感
じのチョウであるが、実は、ずっと以前
から日本に住んでいたチョウではない。
いわば、よそのものである。昔はスジグ
ロシロチョウしかいなかった。スジグロシ
ロチョウは、平地の雑木林の周辺や山間
などで、野生のアブラナ科の植物を食べ
て生息していた。ところが、日本へキャ
ベツなどの野菜が入ってきた時、その野
菜にくつついてやってきたのがモンシロ
チョウである。そして、あつと言う間に
日本各地へ広がり、数十年前までに、台湾
そして離島へと勢力を延ばした。一方、
スジグロシロチョウの方は、平地がどん
どん開発され、野生のアブラナ科の植物
が少なくなつてしまい、山奥に追いやら
れてしまった。かくて、野や畑はモンシ
ロチョウが舞い乱れ、スジグロは山間に
自分たちのなわばりを移すことになつた。
幸いなことは、モンシロチョウは日陰を
嫌うので山間にはほとんど進出してこな

かつたことである。こうして、両種はな
わばりを作り、敵が浸入してくると、一
びきの敵を多数の味方で追いまわして、
お互いの領地を守つていたのである。

ところが最近、都会に再びスジグロが
姿を見せ始めている。これは、スジグロ
の好物のアブラナ科の植物が、栽培植物
として植えられたり、庭などに植えられ
た木々が丁度よい日かげを作るようにな
つたからである。こうして、都会にも再
び両種を見かけることが多くなつてきた
のである。

モンシロチョウは最も早く姿を見せる
チョウの一つである。早春、モンシロチ
ョウが飛んでいるのを目にし、待ちこが
れた春の訪れを感じ、飛びあがって喜び
たくなるのは、虫キチだけであらうか。

(六ツ美中部小 杉浦美典)



スジグロシロチョウ夏型♀

「一組の子は泣いてさっぱりだったよ。」
と、顧問の先生。一人の転校は意外に大
きな破紋を投げかけた。(三島小)

読書会

高木隆尚

毎水曜日・寿司屋の二階でおしゃべり
と会食、否、読書会を行っている。

「授業創造の理論」「読解指導の系譜」
を経て、今は格調高い「矛盾論」。

週担当のレポーターが研究内容をプリ
ントして説明するが、何しろ暖房完備、
高遠な論理に、しだいに夢見心地に
誘われ、レポーターの声だけが響く。精
神と肉体の矛盾の闘争では、肉体が勝ち
易いというとか。

会食の寿司タイムで、再び精神の緊張
をとりとず。ここの雑談が楽しい。

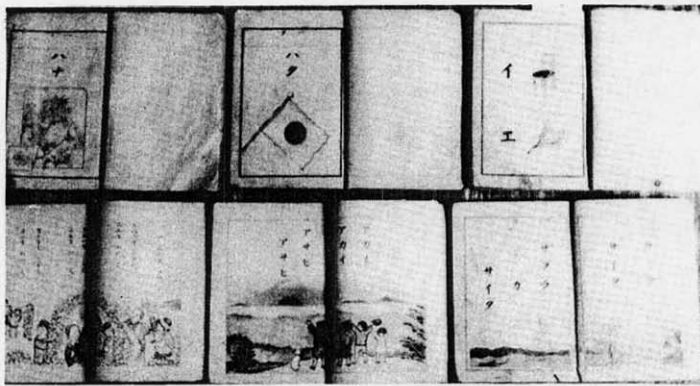
近視のA先生、学級でヨーヨーを禁止
したのに、平然と無視して目の前で遊ぶ
悪童を発見。

憤然、「コラッ」一喝。取り上げても
なお悪童は、ニヤニヤ。よくよく見ると
マツボックリが糸にくくりつけてあるで
はないか。

笑いこらげて聞いた雑談の一駒だが、
悪童のたくましい創造力とユーモア、そ
してささやかな抵抗は、心に残る。

十時近い夜ふけの帰宅。

ひとかどの読書を得て、新しい活力
を得たかの錯覚を得て、今日の疲れをす
っかり忘れるひとときである。(細川小)



教科書のあゆみ

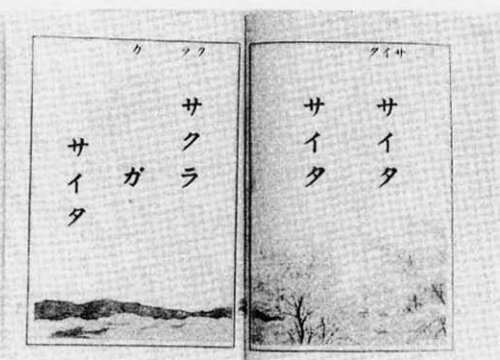
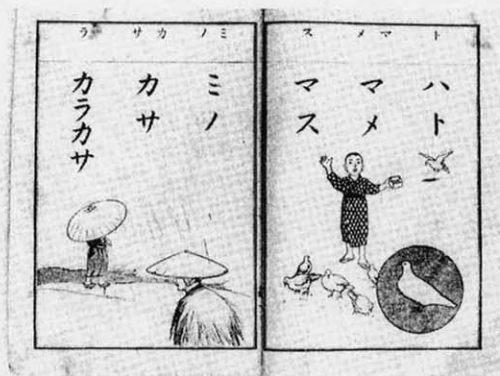
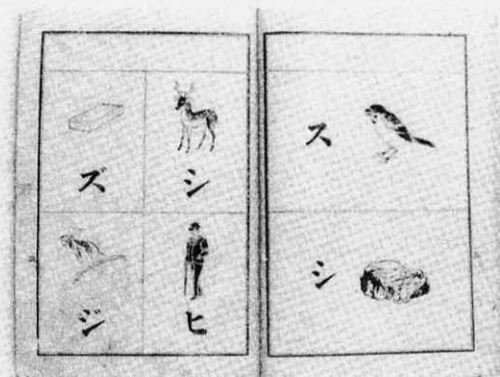
- 明治5 学制発布
 - 14 教科書開申制度
 - 16 教科書認可制度
 - 19 教科書検定制
 - 37 第一期国定教科書(イ・エ・ス・シ読本)
 - 43 第二期国定教科書(ハタ・タコ読本)
 - 大正7 第三期国定教科書(ハナ・ハト読本)
 - 昭和8 第四期国定教科書(サイタ・サイタ読本)
 - 昭和16 第五期国定教科書(アカイ・アカイ読本——国民学校令)
 - 20 すみぬり教科書・折本教科書
 - 22 第六期国定教科書(みんないい子読本)
 - 24 教科書検定制
- (資料は名古屋市長区の医師中村新三氏による。)

教科書の移り変わり(国語を中心として)

新一年生にとって、教科書のもつ意味は特別大きい。学校生活のスタートで学んだことを、人は生涯忘れ得ない。さて、岡崎の教師、千三百余名は、どの教科書で学んだのか。

- ・ハナ・ハト読本 八・五%
- ・サイタ・サイタ読本 二五・五%
- ・アカイ・アカイ読本 一三・五%
- ・みんないい子読本 三・五%
- ・検定制教科書 四九・〇%

国定教科書組と、民間の検定制教科書組と、ほぼ半々というものも興味深い。

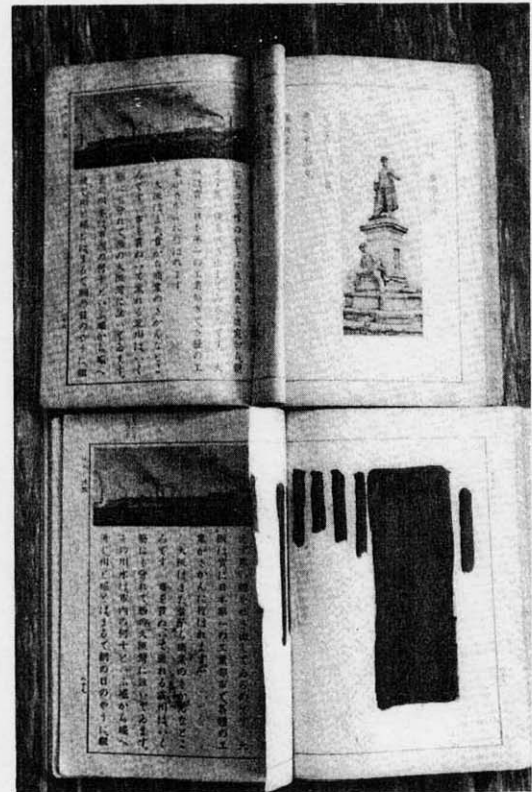
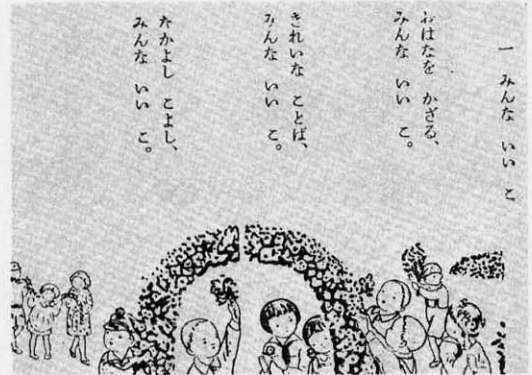


- ①各時代の教科書の第一ページ。
- ②「イエ・スシ読本」音から単語へ。
- ③「ハナ・ハト読本」単語より始まる。俗に黒表紙とよばれる。
- ④⑤「サイタ・サイタ読本」文章で始まり美しい色刷りとなる。当時は世界的水準といわれた。



- ・「はつきり覚えておるな。コイコイシロコイスメスメスメヘイタイスメと、今でもみんな言えるよ。」(五十二才男)
 - ・「成績のいい者にほうびとして教科書が出てね。嬉しかったねえ。」(四十九才女)
 - ・「みんな兄や姉のお古を使っただね。それがでん人は近所で予約をしておいて借りたもんだ。」(五十七才男)
 - ・「本を開く前に、おしただいて開いたのです。今の若い人が開いたら笑うだろうけど。」(四十五才女)
- その日のうちに全部読んでしまったよ。読み物がなかったらね。」(四十三才女)
- ・「墨をぬらされた時は、何とも複雑

思い出



- な気持ちだったね。ぬらせた先生方も、イヤだっただろうけど。」(四十一才男)
- ⑦ 「ええと、よく覚えていないな。そうそう、チュリップの花かなんかついていたみたい……。」(三十才男)
 - ⑧ 「絵はきれいだったけれどね。ことばはどうも覚えがないな。」(二十七才女)
 - ⑨ 「アカイ・アカイ読本」 国家主義的色彩が強まったのが特徴。
 - ⑩ 「みんないい子読本」 ぐつと平和的にはなつたが……。
 - ⑪ しつかりと墨をぬらされた軍神広瀬中佐
 - ⑫ 「うひまなび」 明治元年「名古屋の福沢諭吉」とも称せられる柳河春三が著したものだ。
 - ⑬ 古い教科書の山を背に、収集の苦勞や楽しみを語る中村氏。

S児に触発されて

岩津中 大野清子

その日、授業は終わりに近づいていた。「なだれ」という外国の文学作品の授業を始めてすでに五時間、この作品の中心場面である第四段落の読みの目標は、感動をもって達成されようとしていた。「ほくらは死なない。」

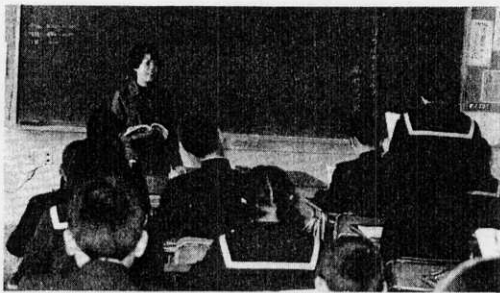
「みんなはまたあんなふうに掘ってくれるにちがいない。」

その時、直感的なひらめきを見せるSが、どうも納得のいかないという顔で手を上げた。

「変だ、変だ、というところは、どういうことをいっているのかよくわからない。」

一瞬どきっとした。成功するかにみえた授業が足もとからくずれるのを感じて私はたじろいだ。予測したことではあった。そういう危惧を抱かないわけではなかったが、翻訳作品にありがちな文章表現や構成上の欠点として、あえて無視してきた箇所であった。またそうしなければ私自身に納得のいく解決をみていなかっただからである。

Sに同意する生徒は多かった。だれもが感じる疑問箇所なのだ



が、指導目標実現のための授業の流れや構造には少しもかわらなかつた。しかし、それが無視してはいけない箇所であり、解決せねばならない箇所であるという国語教師としての心は常に私を責めていた。

Sに触発されて、私の教材研究はやつと真の深まりをみるこゝろができたわけであるが、幸か不幸か、今まではつくりと疑問をぶつけられる機会を持たなかつた私は、それに甘えていたといえる。だが、そういう授業からは、——見かけは成功しているも——生き生きと躍動する生徒の心を引き出すことは

きないと知った。

生徒もつまりき教師もつまりきような困難な場面こそ忌避すべからざるものである。そして、それに立ち向かうためには教師の側にそれなりの研究と努力がどんなに必要であるかを、痛切に感ずるこのころである。

教育日々



金メダルをめざして

常磐東小 太田修司

ター、タータ、ターンタ。全校児童四十六人のハミングと拍手の中、一年生のS君が朝礼台前で六年生の生活部長から善行賞の特製金メダルを首にかけてもらっている。S君のうれしさと緊張した顔。木曜日の児童集会の一コマである。

このS君の金メダルは、生活部担当の「よい行ないをした人」にS君が該当したからである。

本校のような

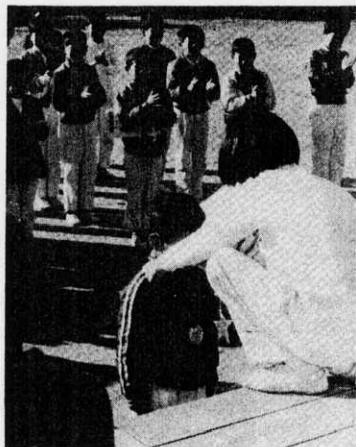
小規模校では、大規模校のような集団の中でもまれる機会も少なく、入学以前から子どもたちで性格や能力を固定しがちで競争意識が乏しい。

児童集会は、全体の中で自分を伸ばす大切な機会である。

金メダルを渡す以前は、名前と善行理由を発表するだけであつた。やはりマンネリ化してきつた。その頃、児童議会で「児童集会がだんだんたるくなくなつてきたが、よい方法はないだろうか。」の発言から、テレビ番組やスポーツの受賞光景を見た五年生のT君から

「メダルをあげたら……。」という案が出された。(これはいい。賛成。)と決定された。そして、生活部だけでなく文化部、保健体育部の全部活動にも設けることとなつた。

金メダルは、ダンボールの空箱に金紙をはり、布テープでぶらさげる。受賞基準は各部で考へて児童議会で審議された。各部は、金メダルのデザイン、制



作に大ハッスルとなつた。

人をあなどつたりすることのあるA君に

「ダンボールの金メダルでもほしいかなあ。」

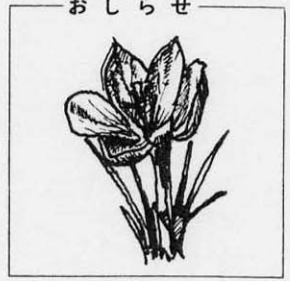
とたずねると

「ほしいよ。首にかけてもらうとかっこいいもん。」

と、金メダルをめざしてがんばる意気込みが伝わってきた。

こうして金メダルをめざして善行、読書、忘れ物、身だしなみをよくしようと全校児童が活動を始めた。効果てき面。

しかし、競争意識を持ちすぎ金メダルにつられて物事の本質をまちがえる子どもたちが出てきた。やさしく注意深く見守つていく必要を感じている。金メダル第一号のS君は、今も金メダルを引き出しにだいにだいにじにしまっている。



昭和五十三年度学校教育重点目標

むだのない確かな授業を

教えること即、学ぶことであることを自覚し、「やる気と思いやり」を大切に、豊かな人間形成をめざし、岡崎教育の確立と信頼を高めたい。

一、活気あふれる学校運営を

校長を核とし、一致協力、意欲と創意に満ちた学校運営をはかる。

二、むだのない確かな授業を

授業こそ、教師の本命と受けとめ、授業を欠かさず、質の高い指導に徹する。

三、たゆみない充実をめざす現職教育を

新任教師には自信を、経験ある教師には専門職にふさわしい指導力を身につけるよう、組織的・主体的な研修活動を強化する。

【寄贈刊物・資料等】

- ◇おかさぎの英語六集 英語部
- ◇算数数学一問一答 算数部
- ◇52岡統研 統計教育研究部
- ◇道徳 年間指導計画 道徳部
- ◇造形おかさぎつ子展 美術部
- ◇教頭研修 教頭会
- ◇校務のしおり 校務主任会

◇ふれあい・小中学校学習指導要領改訂の要点 教務主任会

- ◇岡崎の教育第18集 岡教組
- ・現職教育委員会・校長会
- ◇県外研修実施報告書 県外研修委員会
- ◇読書感想文集13集 図書館部
- ◇文集おかさぎ15集 国語部

菅谷千鶴子▼美川▼鈴木一生・白井たか子・畔柳都▼南▼柴田康正・川津仁子・松井幸彦▼竜海▼近藤正義・杉山裕美・山田恭代▼葵▼内田尚之・杉浦敬章・酒井正子・神谷陽子▼城北▼三浦二左絵・熊谷千恵子・中川三佐子▼福岡▼田境行孝▼東海▼加藤美鈴▼河合▼清水和代▼香山▼三浦裕昌▼岩津▼野村都久男・朝岡恵子・石井昌代▼矢作▼石川佳宏・西山法男・藤原滋美・伊藤恵子・牧内美生子▼六ツ美▼丹羽弘宗・久野正俊・五十樓伊久子 ▼南▼小林邦夫

- 決意新たに三月新任研修る
- 昭和五十三年度、岡崎市へ転入または着任する一〇九名の先生が、春休みを返上して、少年自然の家で三日間、つぎのような日程で、熱気溢れる教員研修に自主参加した。
- 【第一日】三月二十七日(月)
- ▼オリエンテーション▼入所式▼講話へ鈴村教育長▼座談会▼技術研修へ板書実習▼施設參觀▼体験発表へ学級づくりの話へ畔柳教科指導員▼技術研修へ板書実習
- 【第二日】三月二十八日(火)
- ▼ひらがな実習へ富田竜谷小長▼講話へ教師の資質へ精谷正孝先生▼歌唱▼岡崎の教育理解へ映画・VTRで紹介▼講話へ私の考える教師像へ栗田南小長▼体験発表へ新進教員三名による▼講話へ手の機能回復へ榎原羽根小長▼講話へ新任教師の心得へ萩野広幡小長▼懇談
- 【第三日】三月二十九日(水)
- ▼野外学習▼講座へ理想の教師像へ山本東海中長▼講話へやる気をおこすへ浅井教育長補佐▼退所式
- ～～～～～感動の研修会より～～～～～
- ▼三重県にいるとき、愛知の教育に對して抱いていた偏見が振り切れました。岡崎の教育には強い信念があり、岡崎で育つ子どもは幸せだと思えます。
- ▼正直いって、参加する前は「他の都市では行わないのに、どうして岡崎だけ。」などと思ったりしたのです。が、参加してみて、岡崎の教育に対する市全体の情熱がいかに大きなものかを目のあたりにして、教育者としての責任、今までの姿勢に對する甘えに気づき、とても恥かしく思いました。
- ・この二泊三日の研修会で、私が最も感動したことは、人を教えることに生涯のすべてをかけておられる先生方の顔がとても美しかったということである。

- 期待の新採・転入教員二四名
- (小学校) 八八名(男26女62)
- ▼梅園▼市橋章男・菅谷千鶴子
- ▼根石▼中根俊忠、鈴木善子
- 井上まさ子、中根美知子、▼男
- 川▼岡本義文・内田幹也・杉田恵美子・松井博慶▼美合▼神藤和代、佐野るり子▼緑丘▼松崎出・野田光宏・木藤やす子、野村敦子・桑山美恵子▼羽根▼齋藤光男・都築依子、牧野恵・鎌倉昇八・丹羽貞子▼岡崎▼富田良子・石川裕子・中原和子▼六名▼高橋和宏、土屋恵子▼三島
- ▼醍醐由子▼竜美▼鈴木薫・堀恭子・豊田弓▼連尺▼加藤しおみ・加藤陽子・蜂須賀隆▼広幡
- ▼長坂イト子、佐藤裕子・後藤陽子・岩月健▼井田▼山本雅子
- ・竜嶽幸代▼愛宕▼榎原克子▼

- 福岡▼深谷友一・藤原照郎・清水咲千子▼藤川▼冷泉俊明▼山中▼増沢徹▼本宿▼磯部佳世子
- ▼生平▼坂井由枝▼常磐▼山口辰夫・柴田京子・松井伸市▼恵田▼関邦篤▼奥殿▼井村峰子・川合佳枝▼細川▼山田哲也・鈴木武・竹内順子▼岩津▼塚本麗子・深津万里子・石川千絵子▼大樹寺▼石井洋・仁藤俊彦・見鳥悦子・安藤幾子・小早川幸枝
- ▼大門▼栗田万砂夫▼矢作東▼飛田教江・星野孝子▼矢作北▼黒川由美・高寺英世・竹本昌弘
- ▼矢作西▼内田美和・山田一夫・松井洋子▼矢作南▼松岡育代・山田裕子・川島久美子・中川聖子・品川ひさ子▼六北部▼三浦之照、石川登志江・松田サエ子・安藤弘美▼六南部▼宗澤イトエ・岡本孝幸▼城南▼太田裕子・中根以津子
- (中学校) 三五名(男13女22)
- ▼甲山▼原嘉孝・高木美和子・

塚介五左月海



所在地—岡崎市福岡町御坊山土呂八幡宮

土呂八幡宮の藪の中にあるという「海月左五介の墓」を取材することになり、それらしきあたりを歩いてみる。写真を撮るために特によく晴れた日を選んで藪の中へ入ったのであるが、陽の光のさし込まぬ藪の中はうす暗く、顔にへばりつくクモの巣を何度もふり払いながらさとし歩く。ようやく見つけたのはもういいかげんいやになったころであった。藪の奥深くひっそりと建っている石柱には「海月

左五介」という文字がはっきり読みとれたが、その横には、彼の墓とみられる石がいくつかころがっていた。墓の位置や状態からして、これは一向一揆の時、農民側で活躍した人物であろうといわれているが諸説あり明確ではない。近くには、やはり一揆の時の戦死者をうめたという「骨塚」があり、そのあたりを掘ると今でも人骨が出るという。一揆のすさまじさ、農民の無念な気持を伝えているようである。

- 題字
- タイトルイラスト
- カット

- | | |
|------|------|
| 岡崎市長 | 内田喜久 |
| 羽根小 | 杉山功 |
| 東海中 | 木下浩雄 |

この本を

- 落ちこぼしをどうするか 駒林 邦男 ￥1,200
明治図書
- 教育問答 ない いなだ ￥380
中公新書
- 新教育学のすすめ 村井 実 ￥850
小学館
- 未知との遭遇 S・スピルバーグ ￥890
三笠書房
- ちよつといい話 戸板 康二 ￥900
文芸春秋
- 祭りの声 新藤 兼人 ￥280
岩波書店
- 「勉勵」のすすめ 松山 幸雄 ￥820
朝日新聞社
- 日本人の智恵袋 村石斗志夫 ￥750
池田書店
- ベストセラー物語 上 朝日新聞社編 ￥860
朝日新聞社
- 文珠まいり 富田 太 ￥1,800
刈谷高校

お菓子の種類も少なかった子供のころからもらった五銭か十銭を握り、駄菓子屋でタンキリアメを買うのがうれしかった。

通称イモタンといったこのアメは、安くても多かった。口にしながら縄飛び、オジャミ、陣とり等々をしての遊びは、実に日本的な風景ではなかったらうか。

四月号の「月報・岡崎の教育」新学期第一号なので、内容一新、読みやすく、親しみやすいものと、編集部一同一生懸命考えたあげくできあがったのがこれ。

そのわりに目新しさが感じられないのは、我々の勉強不足か、それとも……とにかくごみ箱直行おことわり。

シオア

アクシにやあ、三十数回目の春。

Spring has comeといえども感激などない。バット・ブーン of "April Love" の甘いメロディーに乗って、バイロンの恋歌を地で行きたかったのは今は昔。今日も今日とて、親愛なる読者の皆さんの御期待に応えるべく、春も返上の昨日である。

「すばらしい。先程からのすばらしい卒業式を見て感激しました。……よくぞこんなにすばらしい子どもたちを育ててくださった先生方、本当にありがとうございます。……」

PTA会長の祝詞であった。よし、ことしも期待にこたえて、よりすばらしい年へのスタートをしよう。